正解率だけでは分からない（見のがしとまちがい）

AIの判定の良し悪しは、正解率だけで決めてよいのだろう

例（架空）：1000人の検査で、病気の人は10人。AIで「病気かもしれない人」を見つける

AI-甲：いつも「病気ではない」と答える

正解率：990 ÷ 1000 ＝ 99.0%

見のがし：10人（全員）

正解率は高いが、
病気の人を1人も見つけられない。

→ 正解率だけでは分からない

AI-乙の結果（4つに分けて数える）



正解率：
(8＋950) ÷ 1000
＝ 95.8%

見のがし：2人
まちがい：40人

どちらを減らすかは、使う場面で決める

病気の検査　→ 見のがしを減らしたい

まちがって「病気かも」と出ても、
くわしい検査で確かめられる。
見のがすと、手当てがおくれる

迷惑メールの仕分け　→ まちがいを減らしたい

大事なメールを迷惑メールに
まちがえると、読まずに消えてしまう。
少しの見のがしは、自分で消せる

※ 模式図。人数と結果は架空の例。